

「ありがとう西高！」新聞

発行元：「ありがとう西高！」実行委員会広報室
Mail：nishikouarigatou@gmail.com
#ありがとう西高

Instagram：nishikouarigatou
twitter：@nishiko_arigato
ブログ：https://thanksomiyawest.blogspot.com/

3月の閉校行事に向けて

大宮西高校の閉校まで3ヶ月。卒業生有志による当団体「ありがとう西高！」実行委員会による活動も、いよいよ佳境に入りました。3月に控えた大宮西高校の「閉校関連事業」に向けて、本団体の発起人よりご挨拶を申し上げます。

皆がありがとう西高！と心から言えるイベントに 実行委員会 発起人 栗原俊明よりご挨拶



令和最初の、そして大宮西高校にとって最後のお正月がやって参りました。

閉校まで残りあと3か月。我々「ありがとう西高！」の活動もいよいよ佳境に入り、これまでとはまた違った難しさに直面しておりますが、一度きりの大切なこの機会を皆が納得できるものにするべく、後悔の無いよう進めて行きたいと思っております。

さて、去年は最終年度だからという感傷だけでは語りきれない出来事がありました。それは現役の体育教諭である西幅先生のご逝去です。我々と学校との橋渡し役として、また困ったときには指導役として助けていただいた先生急逝の報は、衝撃という言葉だけではまるで片付けられない大き過ぎるものでした。先生の学校、そして閉校事業に対する熱い想いを受け止めつつ、改めましてご冥福を心よりお祈りいたします。

このように多くの方の様々な気持ちの詰まった閉校事業ですが、公式組織「大宮西高校閉校事業実行委員会」を主体として大きなイベントを2つ用意しております。

一つは卒業生のみならず多くの方々にとって、校舎に入ることのできる最後のチャンスとなる「ホームカミングウィーク」。もう一つは、大宮駅前のパレスホテル大宮で開催される、学校の歴史に幕を閉じる式典としての「閉校式」と、これを機に全ての年代の卒業生が集まり、皆で西高の思い出を和やかに語り合うという主旨のもとで行われる「大同窓会」です。詳細につきましてはホームページを中心に随時アップされておりますのでぜひともご覧下さい。

最後になりますが、卒業生の皆さまにお願いです。

この閉校事業は皆さまのご協力無くして成功はあり得ません。ぜひとも両イベントへのご参加と情報拡散、そして運営へのご協力をお願いいたします。

「誰かが……」ではなく、ここで少しでも自分の手を動かすことが思い出の詰まった学校にできる最後の恩返しだと私は思っています。どうか、大宮西高校のために皆さまの力を貸して下さい。



後輩を歓迎するように新校と並ぶ西高校舎

あの行事は、今 -新入生歓迎会編-

大宮西高の行事の中でも新入生歓迎会、通称「新歓」は記者にとって印象深い行事だ。新入生たちが上級生の待ち受ける重層体育館に入ってくるなり館内が暗転。ステージの幕が上がると眩い照明と若干ハウリング気味の大きな音響が新入生を包み込んだ。バトン部やダンス部をはじめ運動部までもが「文化的」なステージで会場を沸かせ、参加者全員がその場を楽しんでいた。この行事は、誰もが何かに挑戦できる、西高という場所を新入生があらためて体感し、その文化の中に迎え入れられる、まさに歓迎会だった。

入学直後から新聞部員だった記者は、あらゆる行事において取材のために傍観者であることに努めていたが、3年生の時に開催された新歓では我慢できずに志願して司会を務めさせてもらった。初めて参加者としてステージに立ち、慣れない大声をマイクにぶつけた時、あの瞬間、記者は確かに西高生だったと感じる。

新入生の募集が停止となって以来、当然ながら西高で新入生歓迎会は行われていない。参加した者としては正直なところ寂しさも感じるが、本紙の第14号でも取り上げたように、新校では西高の歴史を調べる課題が人気で、実際に多くの生徒が西高の校歌を歌えるという。最後の西高生が新校の生徒に伝統と文化を引き継ぐため用意されたこの1年間で、彼等にとっての新入生歓迎会だったのかもしれない。そういえば最後の西高祭、重層体育館で見た新校の生徒の瞳はステージの照明に染まり、西高色に輝いていた。(石川)

大宮西高校 閉校事業スケジュール

3月 16日 (月) 17日 (火) 18日 (水) 19日 (木) 20日 (祝) 21日 (土)

▼特設サイト



「ホームカミングウィーク」
大宮西高校にて

「閉校式/大同窓会」
大宮駅前・パレスホテル大宮にて

大宮西高伝

必死で守りつないだ、ダンス部への道

川渕 美穂子さん（ダンスインストラクター、保育士）

最近では全国常連校とも言われる西高のダンス部。その歴史は意外にも浅く、ダンス部が設立されたのは2003年のこと。しかし設立からわずか3年で関東のダンス大会で優勝するレベルに急成長している。なぜこれほど躍進できたのか、そもそも西高にダンス部が出来た背景にはどんな事情があったのか。ダンス部の初代部長を務めた川渕美穂子さんに当時の経緯をお話を伺うことができた。

ダンスがしたくて西高に入ったのに

「高校案内の雑誌に、西高にはダンス部があるよって書いてあって、それで西高を選んだんですよ。でも入学したら、無かったんです」と笑う川渕さん。小6からダンスを始めダンスが大好きに。中学では親の転勤もありダンススクールに通えず、高校では絶対にダンスがやりたい、と強い気持ちで西高を選んだ結果がそれだった。さぞや落胆したことだろう。しかし川渕さんは諦めなかった。入学から2年後の3年次にダンス部の初代部長に就任することとなる。

入学当時、ダンス部こそ無かったが「ダンスダンス同好会」という同好会は存在していた。川渕さんは、この同好会に入会することにした。「当時、同好会は3年生の先輩しかなくて。確か、あと3人メンバーを増やさ



西高もダンス部もなくなるけど、繋がりは消えない。新校でもダンス部ができれば嬉しいな（写真左が川渕さん）

ないと潰されちゃう状況だった。先輩から、ミホコちゃんに全部任せるよと言ってもらって。そこから本気になった」と当時を語る。

そこから川渕さんは、同好会を守るため校内を駆け回った。仲間を増やし、顧問になってくれる先生を見つけ、練習場所も探した。発表の機会を作るため、文化祭や新入生歓迎会への参加も交渉。もちろん練習も毎日続けていた。当時の練習場所は、主に北校舎1階の廊下。校舎出口のガラス製（鏡ではない）の扉に映り込む姿を見ながらの練習だった。

同好会から部活にそして大会で優勝

粘り強く、そして情熱を持って交渉した結果、翌年の新入生歓迎会で発表する機会を手に入れた川渕さん。その時も必死だった。

「新歓で踊って、5人以上の部員を獲得できなかったら同好会が無くなる状況」に追い詰められていた。結果は大成功、12名もの新メンバーを獲得した。その後も順調に活動の幅

を増やしていった同好会は、川渕さんが3年生になった2003年に、晴れてダンス部へ昇格する。初代部長は川渕さん、顧問は同好会時代からサポートしてくれた丸山先生だった。

川渕さんが卒業してから2年後、創部時に1年生だった世代が「関東のダンス大会で優勝」という快挙を遂げる。そこから西高＝ダンス部という評判が徐々に作られていった。

「優勝は後輩が頑張った結果だけど」と語る川渕さん。こう続ける「その後の世代から、ダンス部があるから西高に来た。と聞いたことが本当に嬉しかった。同好会を守れて、部活にできて良かった」と語ってくれた。

最後に後輩たちとダンスがしたい

そんなダンス部も閉校と共に最後を迎える。川渕さんに今やりたいことを聞いた。「閉校式で発表したいと思い交渉してます。みんなと一緒にダンスしたい」きっと実現させるだろうな、と思わせる力強さがあった。